

**●Tackle Guide**  
 タックルは専用のカットウフグ竿のほかにカワハギ竿や先調子のゲームロッドなども流用できるが、穂先がしなやかで胴のしっかりした全長1.5~1.8メートルの竿が持ち疲れしない。なお、根がきつい場所では1本バリがおすすだ。

▼根掛かりの多い場所では1本バリもいい



**ハンパが辛抱のじゅんぽ**  
 出だしは絶好調。この調子でガンガン釣れ盛るかと思いきや、その後はポツリポツリとした渋い状態が続く。

真ん丸に膨れた40センチのトラフグを手にしていた。以前は釣れば大金星、まさに宝くじとまで言われたトラフグだが、近年は常磐エリアでもかなりの確率で釣れるようになった。これも温暖化の影響かもしれないが、トラフグが釣れるのは釣り人としてはうれしい現象だ。

渡辺仁美さんが45センチもある特大サイズのショウサイフグを釣り上げていた。これは私が今まで見たショウサイフグの中でも恐らく最大級ではないだろうか。船釣りが初めてでキョトンとする彼女にフグを持ってもらって写真を撮らせていただく。その後、船内の様子を伺いながらミヨシ側に移動していると、

どうにか1尾を釣った釣友の隣君は「エサも全然食わないし、1尾だけ持って帰ってもなあ」と白旗を上げる寸前だ。

状況が一変したのは7時半のこと。8人グループのリーダーである山口さんが連チャンで掛けたのを皮切りにバタバタとフグが釣れ始め、船内入れ食い状態に突入。サイズも20センチ以下は交じらないので釣り応えも十分だ。

忙しく写真撮影に走り回り、こちらも本日が船釣りデビューという福山末菜子さんにも笑顔でフグを持った写真を撮らせていただく。

自席に戻ると1尾しかいなかったはずの隣君のおケの中に5尾のフグが泳いでいる。「どこから盗んだの?」と聞くと、「今、釣ったんだよ」

とフグのような膨れっ面。1時間ほどこのような状況が続いたので写真撮影も順調に進み、ひと段落着いた8時半から私も釣りに参加。

仕掛けが着底したらゼロテンションをキープして、5秒に1回くらいのタイミングで空合わせを繰り返していく。すぐにアタリがくるかと思ったが、すでに時合が過ぎてしまったらしく先ほどまでの好調さとは雲泥の差。

そこで集魚アイテムを付けたら、時には底から2メートルの高いタナを探ったりもしたが、むなししい空合わせを繰り返すばかり。

しかしここが我慢のしどころだ。集中力を切らせて釣りが雑になるとアタリに対して一瞬合わせのタイミングが遅れて掛け損なったりする。心の中で「気を抜くな。気を抜くな」と言い聞かせているとコッソリと穂先にアタリ。間髪を入れずに手首を返して合わせるとガツンと明確な手応えが伝わってきた。

のサイズになると引き味も抜群だ。11時を過ぎたころから再びフグの活性が戻ってきてバタバタと釣れ始める。とくにトモ側が好調に数をのばしていた模様だ。

そして12時に沖揚がり。私の釣果は7尾だったが、船内ではトップ24尾。平均12~13尾といった感じだった。大洗のショウサイフグはこれからさらに群れが集まるので勝負に出かけてみてはいかがだろうか。

「お嬢さんがデッカイのを釣ったぞお」と船長が知らせてくれた。左舷の胴の間に回り込むと

取れていると、「お嬢さんがデッカイのを釣ったぞお」と船長が知らせてくれた。左舷の胴の間に回り込むと



▼夏のフグは大型が多い

**●船宿information**  
 茨城県大洗港  
**大栄丸**  
 ☎029-267-4771  
 (詳細は巻末の情報欄参照)  
 ▶料金=ショウサイフグ乗合一人1万円 (エサ付き1万1000円。追加500円より)、氷付き  
 ▶備考=集合4時半。希望でマダコへも。無料駐車場



大川 茂船長

▶フグ釣りは集中することが大切

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス! これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

7月前半は梅雨空と夏空が入り交じる季節の変わり目。出船時は雨でも日中はカラッと晴天なんてことも。急な天候変化に備えて雨具と日焼け止め、両方用意しておこう。



▲大洗のショウサイフグは今がトップシーズン

茨城県大洗港発! 大竹沖  
 大洗はデカフグの好期!  
 今後は数釣りにも期待!

本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

**集魚アイテムの効果**  
 集魚アイテムは光や音を発するもの。目立つ形状や魚の興味を引く動きをするものなど様々なタイプがあり、時には抜群の効果も発揮することもあることからフグ釣りの際にも装着する人は増えてきたが、デメリットもある。それはオマツリを誘発したり、繊細なアタリを取れなかったり、目立ちすぎて逆に警戒心を抱かせたりすること。初めはスタンダードな仕掛けから始めて、状況によりどのタイプのアイテムが有効か試すのがいいだろう。

●すずき よしかず 腕のあちこちにできた湿疹は「慢性光線性皮膚炎」と診断された。長年の日焼けが原因らしい。皆さんも夏場は日焼け止めを忘れずに。



# アカムツはご機嫌斜めも多彩なゲストに癒される

アカムツは年間を通して狙える魚だが、初めてチャレンジするのであれば夏〜晩秋にかけてがおススメ。

普段は200メートル以上の深海に生息するアカムツだが、この時期になると産卵のために水深100〜150メートルの海域に回遊してくる。

釣り場の水深が浅くなればそのぶん軽量の道具立てで狙うことができ、ビギナーでも気楽にチャレンジできるわけ



▲カンネコ根のアカムツはこれから本格シーズンを迎える

だ。

その浅場のアカムツ釣りの代表フィールドといえば利根川河口沖に位置するカンネコ(寒猫)根だ。

カンネコ根のアカムツ釣りは例年7月ごろよりスタートするが、今年は6月に入ったころより釣れ始め、規定数となる8尾の釣果を上げた船もあった。

6月16日、リサーチに出かけたのは茨城県鹿島新港の桜

井丸。集合時間の4時に受付開始、私を含む6名の釣り人が27号船に乗り込んだ。

## 食わせの間が重要

4時半の出船となり、一路東南東15マイル沖のカンネコ根を目指す。

およそ1時間のクルージングでエンジンスロー。2隻の先着船に合流し、さっそく釣り開始となる。

「いいですよ、水深18メートルのアナウンスで皆さん一斉に仕掛けを投入。ところが数秒後にはギューッと電動リールの巻き上げ音が船内に鳴り響く。さっそくサバの洗礼を受けてしまったようだ。上がってきたサバは25センチ前後のリリースサイズ。しかし釣りたてのサバは特工サなので、2〜3尾はキープしておきたい。回り直しての2流し目は、

「130メートル。山のてっぺんから」カンネコ根は泥質で比較的平坦な地形だが、根という言葉が付くとおり、山状の地形の場所がいくつかあり、今現在はその山にアカムツが着いているとのことだ。

「記者さんも竿出しなよ」

船内の様子をうかがう私に船長から優しいお言葉。アカムツ狙いで

のエサはツボ抜きしたホタルイカの肝付きゲツとサバやサケ皮などの抱き合わせが一般的だが、サバの切り身の持ち合わせがないので、まずはホタルイカの先端に縫い刺した1杯掛けて狙ってみることにする。

着底したところで糸フケを取り、竿を立てるとズボッと泥底からオモリが抜ける感触が伝わる。浅場のアカムツ釣り

## 知得! Tips and Tricks カンネコ根のアカムツ釣りを知り尽くした常連さんの1本バリ仕掛け

この日同乗された常連の阿部さんの仕掛けはマシュマロボールを付けただけの1本バリ仕掛け。その理由について伺うと、2本バリだとせっかくアカムツが掛かっても巻き上げ途中で1本のハリにサバが掛かると振り落とされる。アカムツが2尾掛かることはそう多くはないから、着実にアカムツの釣果を上げるには1本バリのほうが賢明とのこと。仕掛けアイテムを無発光のボール1個しか付けないのもサバ対策。仕掛けが底に落ちなければアカムツに巡り会えない。サバが多いときはすべて外すそう。何よりもオマツリしたときの対処が簡単。昨日も乗船してアカムツを5尾(竿頭)釣り上げたという。余裕のあるベテランが行き着いた効率重視のシンプル1本バリ仕掛け。1本バリに不安を感じる私はまだまだと感じた次第。

▲サバ対策に重点を置くなら1本バリ仕掛け

を実感する瞬間でもある。そのままゆっくりと竿を立て

●しいな よしのり / 「この船宿は女性一人でも安心して来られるんですよ」とは、この日単独釣行の福井さんの一言。私も初めての訪問だったが、まさに同感でした。

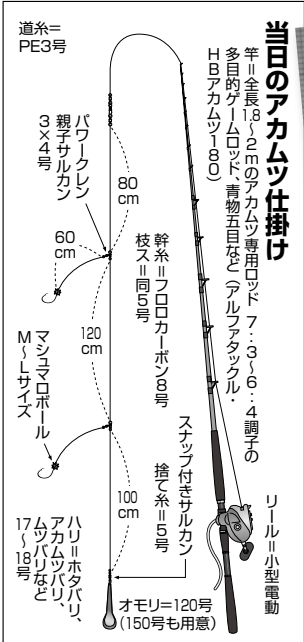
てたところでポーズ。数秒待ってアタリがこなければ、ゆっくり竿を下げ戻し、オモリが着底したところでゼロテンション。



▲替えの枝スを多めに用意しておくといい

## Tackle Guide

道糸は3号を基準に太くても4号まで。サバが多いのでマシュマロボールは無発光タイプがおススメ。



▲サイズ的にはもう一声ほしかった

また、深海の魚は上から落ちてくるエサに敏感に反応するといわれているので、アタリがなければ十数メートル巻き上げて、再び仕掛けを落とし直す巻き落としも有効。ただ、サバが多いときに巻き落とすとサバの層に仕掛けを入れるようなものになってしまうので、その辺は状況判断となる。

## うれし過ぎるゲスト

ゼロテン状態で待っているとゴングと明確なアタリ乗りを確かめるように竿を立てると再びゴゴゴと竿が

たたかれた。

「本命だっべね」

巻き上げ途中にたたかれる竿を見て、仲乗りさんがタモを構える。

海面上がってきたのはサイズこそ30センチ弱だが、ルビー色に輝く魚体はまきれもないアカムツ。

うまいこと寶石の山に乗ったのか、ややおいて右舷ミヨシの阿部さんと右舷大ドモの紅一点福井さんにも25センチサイズが釣れ上がる。サイズこそもう一声ほしいところだが、まずは型を見られてひと安心だ。

私にもサバが釣れたのでさっそくエサにカット、ツボ抜きのホタルイカと抱き合わせて海底へ送り込む。



▲マゾイはうれしいゲスト

恥ずかしながら私はノドグロカサゴとアジをゲット。沖揚がり間際には特大サイズのサバも釣れて思わず興奮。しかし、一番魅せてくれたのは福井さんで、マゾイ、2キロサイズのカンコ、そして2尾目となるアカムツまで釣り上げ、まるでジャンヌ・ダルクを彷彿させる奮闘ぶり。

そんな状況の中、紅一点の福井さんから船中全員にオヤツの差し入れが振る舞われ、タメ息ばかりついていた男性陣が一気に奮い立つ。仲乗りさんには小型ながらも深海のファイター、メダイがヒット。右舷胴の間の佐々木さんはオキメバル(ウスメバル)をゲット。左舷大ドモの星野さんは35センチサイズながらも希少なアラを釣り上げてみせる。

沖揚がりには11時。本命アカムツは一人0〜2尾とご機嫌斜めだったが、代わってアラ、マゾイ、カンコ、メダイ、アジ、大サバなど多彩なゲスト魚に癒された一日となった。ライトタックルで手軽に狙えるカンネコ根のアカムツ、本格シーズンはもう間近です。



▲紅一点の福井さんが大活躍

## 船宿information

茨城県鹿島新港

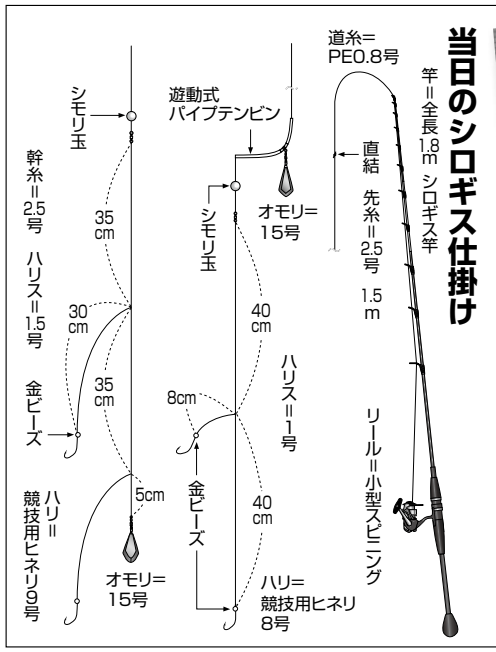
桜井丸

☎0299-94-2206 (詳細は巻末の情報欄参照)



桜井正雄船長

▶料金=アカムツ乗合一人1万3200円(泳付き)  
▶備考=ホタルイカエサ1パック1000円。集合4時。マダイ、フグ、メヌケ、ルアー青物も受付



**●Tackle Guide**  
 テンビン仕掛け、胴つき仕掛けのどちらでも構わない。僕は潮がいい感じに流れているときはテンビン式、それ以外は胴つき式と使い分けている。ピギナーの方には仕掛けが絡みにくくてアタリも分かりやすい胴つき仕掛けがおススメだ。



▲アカクラゲ対策はもうしばらく必要かも

**週末は午前、午後で出船**  
 カメラを手に動いたり、戻って竿を手にしたりの時間が続いたが、子供たちも船下で良型を釣ったりしてワイワイガヤガヤと賑やかだ。

▼中ノ瀬のシロギスは良型が多い



右舷胴の間の男女のグループは初めての釣りのようだが、女性もシロギスを釣り上げてテンションが上がっていた。僕も一荷釣りを含めてポツポツと数をのばしたが、誘いの感触は相変わらず？だ。アカクラゲもかなり邪魔を

した。アカクラゲ除去用に台所用のスポンジを持ってきていたが、それが活躍してくれた。ご参考までに。それにしても、右舷ミヨシの常連氏はなかなかのペースで釣り続けている。テンビン仕掛けでの誘いがマッチしているようだ。暑い日なのだが、午後シロギス乗合にも連投すること。

驚いたのは、釣った魚を料理してもらって食べる「釣りバック」の予約がたくさん入っていること。午前船トップの常連氏も午後船に乗った

誘いのモヤモヤ感を解消するために、仕掛けを胴つき2本バりに交換。キャストしてから手前までシャクってくる誘いに変えたい感じでは何尾か追釣できたが、そのころから潮止まり。画撮りも終わって、さあ集中して釣ろうと

思ったからコレだからネ……。まあ、それでもポツポツと釣って10時45分ごろに17尾で納竿。実質3時間弱の釣りだが、シロギスの型がそろっていたので土産にはなった。小型の数を狙うか、数は落ちても良型を狙うかで釣り場も異なる。悩ましいところだが、中ノ瀬から八景へ小柴沖はやはり良型狙いの色合いが濃い。

**●船宿information**  
 東京湾奥金沢八景  
**荒川屋**  
 ☎045-701-6672  
 (詳細は巻末の情報欄参照) 和田 雄太船長

▶料金=シロギス乗合一日船 9000円、半日船 7000円 (いずれもエサ1バック、氷付き) 追加エサは船上購入半日船 300円、一日船 500円。貸し竿 500円。カッパ、長靴無料レンタル  
 ▶備考=半日船7時半と12時半、一日船8時出船。シャワールームあり。棧橋バーベキュー、釣りバックなどはHP参照

僕は帰宅後に疲れた体でシロギスをさばいて、刺身と天ぷらでいただきました。丸まると太ったシロギスは、そりゃあもう絶品でしたよ。ビールが進みました。

後は、友人と待ち合わせて料理してもらった魚を食べる予定らしい。釣った魚を料理してもらって食べるなんて、ぜいたくなレジャーだね……うらやましい。



▲東京湾のシロギスもトップシーズン突入

**誘いがしつくりい**  
 荒川屋といえば、僕は「荒川屋軍団」を思い出す。金田湾で毎年開かれていた「和竿でシロギスを釣る会」などシロギス釣り大会が盛んだったころ、荒川屋には手練れが集ってシロギス釣りの技を磨いていた。

当時のベテランさんは、ほんのたまにしか来なくなった。今は楽しんで釣って、おいしい魚を食べたいというピギナーさんが多くなりました」と話す。ちよつと寂しい気もするが、時代の流れだろう……シロギス釣りの「修行」という時代ではなくなった。当日は土曜日ということもあり、僕を含めて23名が乗船してほぼ満船状態。貸し竿の方が半数以上で親子連れも多

シロギス釣りが最盛期に入った。この時期はシロギスが産卵のために浅場に入り、抱卵したジャンボキスが活発にエサを追う。そこで6月17日、東京湾奥金沢八景の荒川屋・午前シロギス乗合で様子を見に行った。

「当時のベテランさんは、ほんのたまにしか来なくなった。今は楽しんで釣って、おいしい魚を食べたいというピギナーさんが多くなりました」と話す。ちよつと寂しい気もするが、時代の流れだろう……シロギス釣りの「修行」という時代ではなくなった。当日は土曜日ということもあり、僕を含めて23名が乗船してほぼ満船状態。貸し竿の方が半数以上で親子連れも多

こともあるだろう。定刻の7時半に河岸払い。ナギの海を中ノ瀬に向かって20分ちよい走り、8時ごろにスタート。水深は17メートルだ。当日は大潮で潮が流れているので、僕はテンビン式の仕掛けを軽くキャストして誘った。左舷ミヨシに座ったので斜め右にキャストするが、仕掛けは斜め左の船下方向へけっこうなスピードで入ってくる。かなり誘いづらく、海底で仕掛けを引いた感触もスツキリとしない。

**釣って食べるがさらに進化**  
 知得! Tips and Tricks

これまで Sand Fish は船宿の受付と同じ場所で営業していた

釣り宿が食堂営業をしている例は各地でポツポツあるが、荒川屋のダイニングバー「Sand Fish」は減茶苦茶進化した形となっている。釣りの待合所にバーカウンターができたところには正直驚いたものだが、それが今では一般の人がシーフード料理を食べにくるお店として進化、さらに釣った魚を料理してもらって食べるスペースとしても使われている。40席のお店もフル稼働しているようだ。そんなわけで、手狭になった現在の建物の隣に7月オープン予定の釣り専用受付・待合所が完成した。釣ると食べるをバック化した企画はさらに進化しそう。

▶7月からは船宿専用の受付所がオープンする



▲好天の週末だけあって大賑わいだった

# 良型ぞろいで釣り味満点 中ノ瀬のシロギス好調!!

●東京湾奥金沢八景発↓中ノ瀬 本誌ABC(神奈川)平林 潔 Kyoichi Hirabayashi